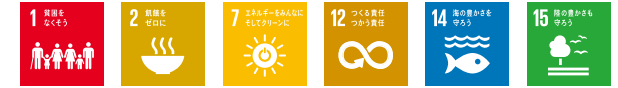


資源・エネルギー・素材・食料・製品の持続可能な供給



三井物産は、調達・生産・物流等、川上から川下まで最適なサプライチェーンを構築し、金属、化学品、エネルギー、食料等の資源および素材、製品の持続可能な供給に貢献しています。

社会の発展に不可欠なエネルギー資源の確保と供給のため、石油や天然ガス/LNG等の事業投資や物流取引を行っており、特に、化石燃料の中では環境負荷が比較的低い天然ガス/LNGの安定供給に向けては、世界各地で開発プロジェクトに参画するとともに、生産からマーケティングに至る全バリューチェーンに幅広く関与しています。さらに、低炭素社会の実現に向け、バイオ燃料をはじめとした再生可能エネルギーの事業化や、水素輸送・貯蔵のモデル構築等、次世代エネルギーにも取り組んでいます。

鉄鋼原料や非鉄金属の資源開発にも積極的に参画し、日本をはじめとする世界各国・地域への鉄鉱石や銅等の金属資源の安定供給に努めるほか、循環型社会の本格的到来を見据え、金属スクラップの供給ネットワーク構築にも取り組んでいます。鉄鋼製品については、成長著しい新興国のインフラ案件への供給体制を構築する一方、自動車・エネルギー等さまざまな産業分野に向け、高い環境性能を持つ部品を含めた調達・供給を進めています。

自動車事業では、車体の輸出のみならず、各地域での物流、生産からファイナンスに至る川上から川下までの安定したグローバルチェーンを構築、また、鉄道事業でも鉄道車両や関連設備の輸出に加え、リース事業も展開する等、鉄道バリューチェーン上のさまざまなニーズに応えるサービスを提供しています。

化学品事業では、栄養基盤となるメチオニンの製造や肥料資源である燐鉱石の開拓、肥料原料の硫黄/硫酸のグローバル物流等アグリカルチャー領域への関わりを深化させる一方、炭素繊維やグリーンケミカル等の新たな取り組みを含め、さまざまな産業に寄与する幅広い取引と投資等を展開しています。

食料事業では、食の安定供給により栄養へのアクセスを改善することを目標に掲げるとともに、世界の人口増加に伴う需給ギャップ、地域的な供給力の偏在が広がる中、安全・安心な食料を安定的かつ効率的に供給する事業を進めるほか、最適なサプライチェーンの構築、気候変動や異常気象、その他の災害に対する適応力向上に資する取り組みも進めます。

東南アジアにおいて多様な食材を提供

活動

SDGs: 2.1

当社は、人口が多く、食品原料の輸入依存度が高い東南アジアを重要な市場と捉えています。中でも、経済成長に伴い中間所得層が増加しているインドネシアでは、高付加価値のある食へのニーズ拡大が見込まれています。こうしたニーズに応えるため、当社はインドネシアを中心に穀物の輸入・販売、精糖・製粉・スターチ製造等の加工事業、港湾運営等、幅広く事業を展開するFKS Food & Agri Pte. Ltd. (以下、FKSFA)への出資・参画を通じ、食品加工分野の事業強化に取り組んでいます。

FKSFAの展開事業と当社の穀物産地事業ならびに当社の持つ幅広いネットワークをつなぎ、産地から消費地に至るまで最適なサプライチェーンを構築することで、インドネシアを中心とする東南アジア市場に原材料や素材にこだわった多様な食材を安定的に提供していくことを目指します。



FKSFAの穀物輸入設備

砂糖事業を通じた栄養へのアクセス改善の取り組み

活動

SDGs: 2.1、2.2、2.4

世界の砂糖需要は年間平均2%の順調な伸長が見込まれています。中でも経済成長が続くアジアは世界の需要の40%を占める最大の市場となっており、より安全・安心・高品質な砂糖への需要が高まっています。当社ではこうした需要を捉え、一大供給地であると同時に需要地に近いタイで、三井製糖株式会社と共同運営する製糖事業会社Kaset Phol Sugar Ltd.の製造能力増強および品質向上を目的とした設備刷新を決定し、2018年6月に本格着工しました。

砂糖は、体内で分解されるとブドウ糖になり、体や脳のエネルギーになることから、特に育ち盛りの子どもにとっては重要です。アジア市場を中心に高品質な砂糖を供給することで、同地域で暮らす人々の栄養へのアクセス改善にも貢献していきます。



ウドンタニ郡にあるKaset Phol Sugar工場付近のサトウキビ畑(タイ)

完全養殖事業を通じてクロマグロの持続可能な供給を実現

活動

SDGs: 2.1、12.2、12.8、14.7、15.5

近年、日本のみならず海外においてもマグロの消費量が増加する一方で、国際的な天然資源保護に向けた漁獲規制が強化されつつあります。将来に向け、持続可能な水産資源の活用とクロマグロの供給を継続するためには、天然由来の稚魚に依存せず、人工種苗由来の親魚を用いた採卵と種苗生産の実現が不可欠となっています。こうした中、当社関連会社のフィード・ワン株式会社では、2014年に人工種苗を親とする完全養殖魚の沖出しに成功、株式会社極洋と連携し、人工種苗の生産から養殖、販売までのバリューチェーンを確立した上で、2017年11月から「本鮪の極 つなぐ<TUNAGU>」と名付けた完全養殖クロマグロの出荷を開始しました。また、沖出し前の稚魚期において、クロマグロでは困難とされていた生餌からの配合飼料化に成功し、2018年に配合飼料の一般発売を開始しました。今後も、専用飼料の開発および事業の効率化による養殖漁場への環境負荷低減に取り組みながら、安全・安心かつ高品質なクロマグロを安定的に供給していきます。



完全養殖されたクロマグロ

閉山・廃鉱に関する方針および閉山時の取り組み

方針

活動

SDGs: 15.1

当社は、閉山・廃鉱に当たって、計画にのっとり適切な対応を実施し、周辺地域の環境・社会への影響を最小限にとどめるとともに、地域社会の発展に取り組むことを方針としています。なお、閉山計画の策定・実施は、事業検討段階ならびに操業期間中における環境影響評価等を通じて進めています。

当社が取り組んでいる鉱山事業では、地域社会の発展・環境負荷の軽減を図るため、規制当局や関連する専門家のレビューも受けながら、将来的な閉山計画を含む事業計画を策定しています。例えば、当社出資先のRobe River Iron Associatesが保有するオーストラリアの鉄鉱山では法令遵守のみならず、地域の環境・社会的な負荷を最小限にすることを目指し、リハビリテーションを含む閉山計画を策定しています。

Our Stories : 安定供給の基盤をつくる

🔍 P.19 営農指導・資材供給を通じ、アフリカ農業の生産性を向上

SDGs: 1.1、1.2、2.1、2.3、2.4、2.a

